・取手市八坂神社の彫刻を残した宮彫師達、

歴史と概要

取手市の八坂神社は、寛永三年(1626)の草創とされている、天保三年(1832)に神殿が完成、彫工師は後藤正忠と後藤市造(二人共後藤縫殿之助の師匠)によって造られ、神前の鳥居は宝永四年(1707)に建立された。

創建から七十年後、神社本殿は老朽化のため明治三十六年(1903)に寺田松五郎と後藤桂林(縫殿之助の子)、高石伊八郎(波の伊八の四代目)により再建され現代にその彫刻を残しています。御祭神は素戔嗚尊(すさのおのみこと)が祀られています。日本では牛頭天王(ごずてんのう)に習合され、平安時代に京の都で信仰されるようになり祇園御霊会、祇園祭に於いて祀られるようになり、京都の祇園感神院の地の八坂神社に祀られ除疫神として尊崇されています。

取手の八坂神社祭礼は陰暦の六月十七日より三日間を例大祭とされてきましたが、昭和三十年から八月一日から三日間に変更されました。新四国相馬霊場第三番札所があり。隣には「8時だよ、全員集合、ドリフターズ」の生放送で停電になり、TV放送が真っ暗という珍事件で有名な、取手市文化会館がある。

でも実は、ここは昭和初期迄、取手で一番古い里仁小学校がありました、現存の取手小学校があった所なのです。

上写真碑の銘　←　房州廻塚　高石伊八郎、狸渕　寺田松五郎、笠間　二男後藤保之助、亡父後藤縫殿之助　→　　八坂神社本殿裏

彫刻の寺といわれる柴又帝釈天と八坂神社に彫刻を残した宮彫師達、

後藤家、拠点、常陸国笠間。上総と下総や常陸国を中心に活躍した宮彫師の家系です。縫殿之助流派は現在、岩井猫実の井上家として存続しています。

後藤縫殿之助	**後藤縫殿之助**(ぬいのすけ)、文政八年(1825)～明治 34 年(1901) 十代後藤茂吉右衛門正忠門人、後藤豊後、藤原正重。取手市小文間白山神社は、明治 23 年(1890)に拝殿や本殿向拝に彫刻を残している。八坂神社では縫殿之助は既に亡くなっており、保之助は「父の功績を思って銘を残した」と笠間神社蔵に記録している。文政八年(1825)下総国猿島郡猫実(ねこざね、阪東市(岩井市)猫実) 村の野口家(現存)出生。	**後藤保之助**	**後藤高之助**、縫之助の長男、明治 21(1888)年頃、**後藤桂林**として独立する。 取手八坂神社や柴又帝釈天の彫刻は、保之助ではなく桂林が残したものです。 **後藤保之助**、明治 30 年～？・・縫之助の次男、父と共に仕事をする、後藤桂仙(武雄)。保之助は改築の請負人であったが彼自身の彫刻作品は存在しない。兄の高之助である後藤桂林が本殿の日本武尊や天之岩戸の作品を残しています。保之助は、東海村の村松山虚空蔵堂の改築もしている。

後藤縫殿之助と殿を添えた名は明治十年内国勧業博覧会で金賞となり大久保利通から授与された。受賞作品は「獅猊」、花紋賞牌に後藤縫殿之助　と刻銘される。

寺田家、拠点は、つくばみらい市狸渕（現在、伊奈の小貝川沿、間宮林蔵生家の近隣）。寺田家は後藤流派を継いでおり後藤筑波派といわれた。

寺田松五郎	本殿向拝の竜に刻銘がある、後藤松五郎ともいう。
寺田豊三郎	松五郎と同じ筑波の狸渕で後継者と思われる、大正４年に白山の金刀比羅神社境内の光音堂の改築を行っています。

高石家（武志家）、**「波の伊八」**、

彫刻「横波」

初代の武志(高石)伊八朗伸由

(宝暦元年(1751)～文政七年(1824))は**「波の伊八」**といわれました、高石伊八郎信由は、鴨川市行元寺の客殿の欄間に横から見た波を題材にした彫刻で一躍有名になりました。作品は現在でも行元寺にあります。唯、その図柄が葛飾北斎の「神奈川沖の波裏」と似ており、北斎が盗用したのではないかと言われたほど似ていたため、後に、葛飾北斎が安房国には訪れていない事実が証明され誤解は解消されました。五代目の信月は、子に恵まれず彫刻師伊八家は終わります。欄間の彫刻は行元寺の庫裏客殿にあります、常時開帳ではないので拝観希望の場合は事前に、行元寺へ問合せて下さい、電話番号は 0470-86-3816　です。

四代高石伊八朗信明の彫刻

懸魚(げきょ)と欄干より下回り二段の羽目板、登り勾欄下羽目板や欄干下頭貫獅子などの彫刻を残している。

伊八朗は八坂神社の仕事を終えると、加藤勘造氏に呼ばれ、柴又帝釈天の仕事に、後藤保之助や寺田松五郎らと共に出向きます。

本名：高石仙蔵、文久二年(1899)～明治 41 年(1908)。

宮彫師東都後藤本流と嶋村流(波の伊八)は敵対していたのですが、八坂神社で一緒に仕事をしていて異例な事といえます。更に、後藤流派の加藤勘造に柴又帝釈天まで招かれて仕事をした事実をみると、四代目伊八朗は彫師として腕がよかったのではないかと思われます。

八坂神社の縣魚(げきょ)は、本殿の屋根の鬼瓦がある下、破風板に吊り下げてあるので拝殿内に入らないと見ることが出来ません。

八坂神社には、関東三大御輿(日光二荒山神社、石下八幡神社)とよばれる勇壮な白木の大御輿があり、この神輿は文政九年(1825)に造られました、夏の祇園祭りでは 80 人程の若者で担ぎ「荒みこし」と呼ばれています。他に渡御や底抜け山車(歩く屋台)に神楽ばやしなど、伝統ある祭例が行われています。

後藤縫之助の取手市内での彫刻は、小文間の白山神社(戸田井橋)にあります、明治 23 年(1890)の鳥居や拝殿、本殿の改築で 65 歳時の作品です。
ただし、鳥居は石の鳥居に、又拝殿も昭和になって一部直されております。余談ですが、閻魔大王と脱衣婆の木造像(作者知らず)は古いものです。

火炎の竜　　(本殿は彫刻保護と鳥避けの為、金網で囲ってあります)	正面向拝の登り竜柱と下り竜柱
天狗と牛若丸、源義経が京都鞍馬で修行時の絵。	八岐大蛇(ヤマタのオロチ)を退治する、素戔嗚尊(すさのおのみこと)

取手市と我孫子市の足跡。

寺田豊三郎の光音堂の改築

向拝と懸魚、虹梁(こうりょう)と蛙股(かえるまた)、木鼻(きはな)の彫刻。

取手市白山の金刀比羅神社　境内の光音堂改築

光音堂向拝竜裏の刻銘より彫刻師　寺田豊三郎大正四年六月　　寺田松五郎の後継者。

後藤縫之助初期の作、我孫子市布佐の観音大師堂の竜右(上↑)、竜左(下↓)

後藤縫之助(推定)の相竜

新四国相馬霊場の第五十八番布佐都の啓正寺跡観音堂と大師堂の再建

後藤勘司(北相馬郡北方村)三代後藤藤太郎は、各所の新四国相馬霊場の再建や改築を行っている、第二十四番布佐延命寺昭和十年再建、第二十九番日秀観音観音堂と大師堂、第八十九番浅間前大師堂、四国霊場石塔：安永五申年五月(1776)、第七十四番下ヶ戸西音寺大師堂、第八十一番新木長福寺境内大師堂明治三十二年一月二十日(1899)再建など。他に、後藤重四郎(北相馬郡北方村、佐藤一重)、二代後藤籐太郎藤原一重門人、東海寺(布施弁天)大日堂　明治 17 年、布佐延命寺虚空蔵堂の大正十二年(1923)再建などがあります。

後藤桂林の竜

第二十七番、我孫子市高野山最勝院境内。大師堂向拝の竜

大師堂：明治三十七年改築、中央の竜の顔が凄まじい。

取手八坂神社宮司、参考文献「江戸彫工ホームページ」さま、ありがとうございました。

取手の八坂神社は拝殿を常時開けていません。掲載した彫刻の写真撮影は出来ません。従ってコピーや転載は禁止します、著作権侵害処置　©